

音声入力

JJ1SXA/池

音声入力は、古くからある手法だが、今まで利用していなかった、AIの発達と共に変換精度が向上しているようだ、利用しないのは勿体ない、というわけで勉強することにした。

パソコンのキーボードからの入力なら良いが、スマホの入力は苦手だったり、素早くメモやメッセージを入力したい時には便利のようだ。

特にスマホとの相性は抜群のようだ、手に持って話かけると、検索のキーワード、メッセージへの返信などを瞬時に入力できるし、スマホだと標準で句読点の自動挿入機能が有効になっていて、長い文章も読みやすい形で入力できるようだ。

一方パソコンでは、使用する音声入力機能や設定によっては、句読点の代わりに半角スペースしか挿入されないなど(設定で改善できるようだが)、スマホに比べると一步劣るのが実情だとのこと、ただし、これはAIの登場で大きく改善できるようになったようだ、中でもAIの定番「ChatGPT」、グーグルが開発する「Gemini」、Windows標準の「Copilot」などのAIサービスに音声入力した文章の修正を依頼すれば、瞬時に読みやすい文章に直してくれるので、パソコンユーザーも「音声入力+AI」という組み合わせで音声入力の恩恵を大いに受けられるようだ。

音声入力の設定方法だが、スマホの場合は、iPhoneとAndoroidで音声入力の設定方法が異なるし、パソコンの場合も変わってくる。

まずは私の「Andorid スマホ」の場合、アプリの一覧から「設定」を開き、「システム」→「キーボード」へ、更に開いた画面で「Gbord」→「音声入力」と進み、「音声使用」などの項目を全てオンにする。(機種によって若干表示項目や名称が違うようだ)。

「iPhone」の場合は、ホーム画面にある「設定」アイコンをタップし「一般」から「キーボード」設定へ、開いた画面にある「音声入力を有効にする」と「自動句読点」をオンにする、次に、「音声入力言語」をタップし、開く画面で英語のチェックを外し、日本語だけにする。(私はiPhoneを持っていないので実際の操作をしていない、間違いがあるかも知れないが、ご承知おきください)

これでスマホからの音声入力の環境は整った、便利に使える場面の一部を紹介すると、まず「Line」だ、今届いたメールにすぐに返信する場合、一般的な手順だと「Line」アプリのトーク画面を開いて内容を確認し、返事を入力するのだが、もっと簡単で素早く実行する方法がある。

「Line」の通知画面からの返信、Andoroidなら、タップ後の画面で返信を選択する

と、返信メッセージの入力画面が表示される、iPhone なら「通知」を長押しすると現れるメニューで、どちらも利用するキーボードの音声入力機能が有効になっていれば、キーボード上にマイクボタンが現れるので、このマイクボタンをタップしてスマホに話しかけてメッセージを入力する。

キーボード上にあるマイクボタンをタップしてから話すという手順がスマホの音声入力操作の基本となる。

自分から LINE のメッセージを送る場合でも、送信相手とのトーク画面を開いて、キーボード上のマイクボタンから音声入力できる。

次は「検索」、Google などの検索サービスで何か調べる時も音声入力が便利、スマホの文字入力が苦手な人は勿論、手が塞がっていてスマホが操作できなかつたり、手袋をしていて画面操作がしにくいときでも文字入力ができる。

その他、音声入力で時短になるのが、地図アプリの経路検索、Google マップで経路検索を実行する場合、通常は、出発地と目的地を指定しなければならないが、音声入力なら「〇〇から△△への経路」と話しかけるだけ、現在地から目的地へは「△△への経路」だけで済む、移動手段などの条件は検索結果後に再指定する必要があるが、それを考慮しても手作業で目的地を入力するよりかなり楽だ、同じ音声入力で目的地の周辺地図を表示したり、周辺施設を検索したりもできる。

メモアプリのお勧めは「Google Keep」だ、Google が提供する無料のメモアプリです、テキストメモや音声メモ、手書きメモ、画像メモなどを作成・管理できます、Android スマホはもちろん、iPhone でも使えます。

最後は、スマホ標準の「音声アシスタント」機能を使う方法、「へい！シリ」や「へい！グーグル」と呼びかけて、スマホにさまざまな操作を実行させるものだ。

この音声アシスタントを使う利点は、スマホの起動(スリープの解除)も音声だけでできるようになること、つまり完全に手が塞がっていても、ウェブ検索したり、経路検索をしたり、メモを作成したりなどができることだ。

音声アシスタントを実行できるようにするには、自分の声を登録する必要があるが、それさえ終わればさまざまな操作に利用できる。

Android の Google アシスタントを声で起動するには「設定」で「アプリ」→「アシスタント」とタップ、次画面で「OK Google…」へ進み、「Hey Google」をオンにして自分の声を登録する。

iPhone の Siri を起動するには、「設定」の「Siri」項目に進み「Siri に話かける」で「“Hey Siri”」にチェック、画面に従って自分の声を登録する。

記号や絵文字、改行なども音声で入力できる。

入力する文字、記号と話す言葉

入力する文字、記号	話す言葉	
、	読点	とうてん
。	句点	まる
・	中点	なかぐろ
—	ハイフン	はいふん
_	アンダーバー	あんだーばー
…	三点リーダー	さんてんりーだー
/	スラッシュ	すらっしゅ
@	アットマーク	あっとまーく
※	米印	こめじるし
^	キャレット	きゃれっと
!	感嘆符	びっくりまーく
?	疑問符	はてなまーく
&	アンド	あんど
%	パーセント	ぱーせんと
#	シャープ	しゃーぷ
□	四角記号	しかく
+	足し算	たす
÷	割算	わる
X	乗算	かける
(丸カッコ	まるかっこ
)	丸カッコ	まるかっこことじ
「	カギカッコ	かぎかっこ
」	カギカッコ	かぎかっこことじ
	空白、スペース	(非対応)

キャレットはほとんど使わないと思うが、意味は自分で調べてください
(キーボードでは数字キー0の2つ右にある)

改行するは、「あたらしいぎょう」と話す
絵文字の入力は「○○のえもじ」と話す

パソコンの場合だが、Windows11 なら音声入力を使いやすいようだ、基本的にパソコンでは、キーボードで文字を入力する、音声入力はキーボード苦手のユーザー向けだが、キーボードベテランでもお勧めとのこと、それは、音声入力の方が、短時間で入力できるからだ。

日本語のタイピング技術を競う資格試験では、上級者でも入力速度は1分間に100～150字程度、達人レベルで200字程度と言われる、だが音声入力なら、一般的にスピーチなら、1分間に300字程度、Youtube 動画なら400字程度のテンポで説明するのが望ましいとされる、これらは特殊な例としても話す方が速いのは間違いない。

Windows11 は音声入力に標準対応しており、すぐに利用できる、「Windows」+「H」キーを押すとポップアップ画面が出現、マイクボタンが青色になり、音声入力が可能になる。

後は、パソコンのマイクに向かって話しかければ、その内容が自動的に認識され、テキストとして入力される、マイクボタンが白色の時は音声入力がオフなのでクリックして青色にして音声入力を始める。

なお音声入力機能は、何らかのテキスト入力欄を選択していないと実行できないので注意。

パソコンで音声入力を活用できる場面は、基本的にはスマホと同じ、Google 検索をはじめ、メールの文面、LINE の投稿、Google Keep でメモを取るなどの作業だ。

更に音声入力は、AI サービスとの相性が良い、AI は対話形式で作業するのが一般的、さらにプロンプトと呼ばれる AI を稼働させる条件を、長々入力しないと思通りの結果を得られない、キーボードで一つ一つ入力するより、話して指示する方が手っ取早い。

もう一つ、文書作成もパソコンの音声入力の実力が生かされる場面は「Word」や「Google ドキュメント」を使った文書作成時だ、Word との相性が良い理由は、スペルチェックや校閲機能があり、ミスや表現のおかしな箇所はもちろん、修正候補も提案してくれる、Google ドキュメントは独自の音声入力が誰でも使え、変換精度も Windows の標準機能よりやや上のようなのだ。

音声入力した文章を読みやすく修正する作業を AI を活用して行えば、間違いや読みにくい箇所を修正してくれる、校閲は大変な作業だが、AI で一括修正することで作業効率は向上する、「句読点を入れ、誤変換などを修正して」と AI サービス (Chat GPT・Gemini・Copilot など) にお願いだ。

スマホもデスクトップ PC も利用を始めたばかりだが、音声入力も AI サービスも、キーボード苦手な私には大変ありがたい存在だ。

(2025 年 2 月記)